

令和2年度 学校自己評価システムシート（県立三郷特別支援学校）

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> 仲間を認め合い、絆を深めながら楽しく学べる学校 家庭や地域と連携し、豊かな体験を通して児童生徒一人一人が自ら学べる学校 共生社会の実現を目指し、地域のセンターとしての役割を果たす学校
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 児童生徒が、主体的に学習に取り組む力を育む専門性の高い授業の実践 保護者、地域に信頼される開かれた学校づくりの推進 児童生徒が安心して学校生活を送るための学習環境及び施設設備の充実
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
(新型コロナウイルス感染防止のため、書面による会議を実施)		
	事務局(教職員)	7名

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標					年度評価（2月1日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	<p>○教育支援プランに基づいた教育活動の充実を図るとともに、本校独自のキャリアマトリックスについて、文言の修正や内容の変更修正を進め、活用方法について検討していく。</p> <p>○児童生徒の増加により、限られた学習環境ではあるが、各学部で新学習指導要領の趣旨を踏まえた効果的な指導が進められるよう、より実践的な研修と教職員の学び合いを充実させていく必要がある。</p>	・教育支援プランを踏まえ、児童生徒一人一人の実態把握に基づいた授業の実践	<ol style="list-style-type: none"> ①保護者と合意形成を図り障害特性を踏まえた教育支援プランA・Bを作成し、教育活動を行う。(継続) ②本校独自のキャリアマトリックスを、児童生徒の実態把握に活用する。 ③外部講師を活用した研修を行い、各学部・学年ごとに児童生徒の実態に応じた研修を行う。 ④教員の研修では、児童生徒の実態を踏まえ、興味関心を引き出す授業実践と教材教具の工夫を充実させる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①教育支援プランが指導、支援に活かされ、個に応じた指導、支援が実施できたか。 ②キャリアマトリックスを活用し、児童生徒の実態を担任間で共通理解できたか。 ③各学部・学年に応じた研修が、計画的に進められたか。 ④児童生徒が自ら取り組む「わかる・できる・楽しい」授業が実践できたか。 ※保護者アンケートで満足度の確認	<ol style="list-style-type: none"> ①面談の時間を活用し、保護者と課題を共有することができ、そのことは保護者アンケートからも読み取れる。その課題を踏まえ、指導・支援を行うことができた。 ②キャリアマトリックスを学級経営案に添付し、児童生徒の実態把握の資料として活用した。そのことにより、担任間で児童生徒の実態把握や成長の度合いを共通認識でき指導・支援につながることができた。 ③児童生徒の実態に応じた実践的な研修会を実施し、個に応じた指導を充実させることができた。 ④保護者アンケートでは、「子どもたちが興味関心をもって授業に取り組めたか」という問いに対し、約9割が「そう思う・どちらかといえばそう思う」と回答し、着実な実践が進んでいる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、担任間での共通認識を大切にするとともに、保護者との共通理解を深め、より専門性の高い授業を実践する。 ・児童生徒数の増加による限られた教育環境の中で、教職員の更なる工夫が求められる。より実践的な研修と、教職員の指導体制を今まで以上に整える必要がある。
2	<p>○保護者や地域への情報発信は学校ホームページをリニューアルし、適宜更新している。保護者等は、スマートフォンの閲覧により情報を取得している傾向にあることから今年度は、スマートフォンから必要な情報が迅速に得られる配信が必要である。</p> <p>○コーディネーターによる各学校への巡回相談等は、評価も高く信頼も厚い。引き続き、関係機関との連携・協力を深めながら、特別支援教育に関する地域のセンターとしての機能を高めていく。</p>	・学校PRの強化と地域のセンターとしての役割	<ol style="list-style-type: none"> ①児童生徒の作品や活動の様子、各学部学年からの情報発信を積極的に行い、本校の教育活動や特別支援教育に対する理解を深める。 ②コーディネーターを中心として、相談支援や地域支援、支援学習の充実を図る。(継続) ③校内支援委員会において、実態把握表を活用した児童生徒への支援体制を進める。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校ホームページを活用した情報発信を行い、本校の教育活動や取り組みを知らせるとともに、適切な情報提供を行うことができたか。 ②保護者や地域のニーズを踏まえ、計画的かつ適切な支援が実現できたか。 ③ケース会議等を活用し、必要に応じて関係機関と連携しながら組織的な対応と、早期解決へ向けた取り組みが実施できたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①日々の児童生徒の様子や三陽祭代替行事等での作品や動画を掲載することができた。また、新たに新型コロナウイルス関連ページ、緊急用ホームページを開設・周知を行うとともに緊急メールとの併用活用により、迅速な情報提供が実現できた。さらに、臨時休業中の学習課題や学習動画を児童生徒の課題に応じ掲載することができた。 ②新型コロナウイルス感染防止の影響で、巡回相談等の回数は減少したが、個々のニーズを踏まえた支援ができた。 ③実態把握表を参考としたケース会議や校内支援を実施することで、関係機関と組織的に対応するなど支援体制の充実を図ることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と保護者との連絡手段について一斉メール配信等の一層の活用により、スマートフォンを利用する保護者の利便性を高めていきたい。 ・コロナ禍における巡回相談等の実施方法等も検討し、学区内の小中学校からの相談等に応える。 ・実態把握表を活用し、保護者及び関係機関との連携を図りながら組織としての支援体制をより充実させていく。
3	<p>○安全に関する定期的な取り組みを行っている。引き続き、緊急対応への意識の向上を図るとともに、校内の施設設備の安全性について、日々確認をしていく。</p> <p>○昨年作成した対応判断基準表に基づき、PTAと連携しながら災害対応へ備える。</p> <p>○アレルギーを有する児童生徒が増加傾向にあり、その対応方法が多様化してきている。アレルギーの特性と対応方法について情報共有する必要がある。</p>	・緊急時の対応や安心・安全な学習環境づくりの推進	<ol style="list-style-type: none"> ①毎月実施される安全点検の充実と、緊急災害を想定した対応や、備えについてPTA及び行政と連携し、準備を進める。 ②災害時の対応判断基準表の運用と改善を加え、更なる充実を図る。 ③アレルギー対応に関する研修を行い、更に共通理解を深める。(継続) 	<ol style="list-style-type: none"> ①緊急時の対応について、適切な訓練を実施することができたか。また、PTA等と連携して備蓄品等の検討を進めることができたか。 ②災害時の対応判断基準表の運用と改善を行うことができたか。 ③児童生徒一人一人のアレルギー特性について、教員の対応力が向上したか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①新型コロナウイルス感染防止により、全校での避難訓練は未実施であるが、各学部学年クラスで工夫しながら実施した。教職員を対象とした避難訓練では、避難経路や災害時の対応について理解を深めることができた。また、PTAと連携し校内備蓄品等の確認等を行った。 ②今年度は大型台風や降雪等はなく、災害対応基準表の活用はなかった。 ③教員間で児童生徒一人一人のアレルギー情報を共有し、適切に対応することでアレルギー事故を防ぐことができています。また、学部学年ごとにアレルギー対応に関する研修を行い、教職員の意識を更に向上させることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止対策を行いながらの災害等に対する避難訓練を計画・実行し、災害に備えておく必要がある。 ・PTAと連携し、校内における備蓄品の購入・入れ替えや、危機管理対応マニュアルの確認など、より実際に沿った災害の備えが必要である。

学校関係者評価
実施日 令和3年2月15日
学校関係者からの意見・要望・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・限られた教室数などの学習環境下において、うまく工夫して指導している。 ・個別面談において保護者と課題共有等ができる機会が設けられ、それが学習方針などに反映されている。 ・授業については多くの保護者が評価しており、日頃から先生方が実践的な研修に励まれている成果だと思う。 ・キャリアマトリックスをもっとアピールすると保護者の共通認識にもつながる。
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、コロナに関する情報等が、こまめにメール配信がされたこと、欠席遅刻連絡がホームページから入力できることになったことなど取り組みが進んでいる。 ・文書がメールで送られてくるようになり、スマートフォンですぐに確認できるのでとても助かる。 ・支援学習は将来一緒に社会を構成する子どもたちが障害のある人たちを当たり前の存在として学ぶ絶好の機会である。地域支援と併せて充実していただくことをお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心できる学習環境をつくることは、教職員、PTA、地域と連携して進めることが大切であり、子どもたちにとっても生涯を通じて健康で安全に生きていく力を身につける機会です。自分の命は自分で守ることができる子どもたちが育つようお願いします。 ・次年度もコロナ対応は続くと考えられます。次年度の「現状と課題（目標）」の1つにコロナ禍の対応を掲げても良いかもしれません。

